

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000500		
法人名	株式会社 シンシア		
事業所名	あいおいホームグループホーム英田		
所在地	大阪府東大阪市吉田本町1丁目5-26		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常のありきたりの生活の中で自分らしい居場所を見つけ安心して最期の時までお過ごし頂ける様に努めている。代表者が看護師資格を持ち、経験のある保健師であるので看取りケアまで行えるのが当ホームの特徴である。代表者による、全職員に対しての徹底した看取りケアの教育も行われている。また、地域包括ケアに一役を担えばというケア目標を持ち、地域に開かれたグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保健師・看護師などの資格を持つ代表者が、高齢者介護の理想を目指して「まごころ・ふれあい・助け合い」の理念を実現すべく設立したグループホームである。管理者はじめ、職員一同はこの理念に添って、気持ちを一つにし、利用者が安心して暮らせる居場所を作るべく努力中である。薬に頼らない認知症のケアを心がけている、歌の会ボランティアの講師と職員の協働で音楽療法の一環として持続したいとしている。さらに地域の高齢者にも頼りになる施設としての貢献を目指している。開所して4か月余りであり、今後人員配置等様々な課題は出てくるであろうが管理者・各職員のさらなる努力に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「まごころ・ふれあい・助け合い」の理念の掲げ、玄関に掲示し新人教育の際に周知徹底している。また、朝夕申し送り時に職員一同唱和している。	管理者、職員一同は、事業所の理念である「まごころ・ふれあい、助け合い」の精神で、利用者が自分らしい生活のできる居場所を提供し、安心して暮らせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会と交流を持つように、今後地域の祭り等に参加を検討している。	自治会に加入し、管理者は会合に出席したこともあり、職員も近隣の人々に常に挨拶を交わし、地域に溶け込む努力をしている。介護相談に応じると玄関に表示している。	今後地域との交流の幅を深め、地域の高齢者福祉の拠点としての活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の外壁に無料相談承る旨を掲示し、介護相談があれば所内相談や訪問相談、電話相談に応じている。また施設見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域包括支援センター・自治会・スタッフで会議を構成し2か月毎に実施、家族会を併設し家族参加を促している。	開所して一回、併設の小規模多機能ホームと合同で会議を開催。地域包括支援センターの他、自治会より2名、事業所社長以下3名出席で、双方向的な会議であった。今後2か月ごとに開催を予定している。	事業所は認知症ケアの地域への理解を深めるためにも構成員の拡充に努めることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問・報告等をその都度電話、窓口にて伺っている。	折に触れ市の福祉管理、介護保険担当部署を訪問し運営状況を報告し、指導助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を要綱に基づきスタッフ間で徹底し見守りに主眼を置き実行している。	管理者の指導により、身体拘束の対象となる具体的な行為はほぼ全員が理解している。新人にはその都度研修で指導する予定である。玄関、エレベーターホール、ユニット出入口は家族の要望で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の取り組みを要綱に基づきスタッフ間で徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護を活用するよう心がけており、スタッフ間で制度の理解・共有化を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人及び家族に説明を行っており、各2部作成し双方が保有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部相談機関及びその連絡先を列記し、説明している。また意見箱を玄関に設置している。	利用者の希望は直接聞き取り、毎日寄り添って生活する中でも感じ取っている。家族の意向は訪問された時や今後開催の、家族会でも聞き取るとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフリーダーを通じてスタッフ意見を運営に反映させている。また、毎月リーダー会議や各ユニット会議、ケース会議を頻回に開催し全スタッフが会議に参加する体制を作っている。	月一回のスタッフ会議、各ユニット会議で提出される職員意見を吸い上げ、運営に反映させている。また直接話し合うことで意見を聞き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフリーダーを通じてスタッフ意見を運営に反映させている。また、毎月リーダー会議を開催し他のスタッフの意見の発表の場を設けている。年単位で昇給・昇格の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一同にリーダーの役割を設けている。また資格取得体制を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス協議会に参加し、スタッフに順番で研修参加の機会設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。施設訪問を積極的に受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を必ずお勧めし、介護相談を行い経度の場合は他施設サービスを、重度の場合は病院受診をもご紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様目線に立ち、傾聴の姿勢を保ちつつ、お客様の扱いを良しとしない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事あるごとにご家族と密に連絡を取るよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に開かれたホームをコンセプトに知人やご家族の訪問、外出支援に力を注いでいる。	利用者の馴染みの人が、たまに訪問されることがある。それ以外に馴染みの人や場の把握はできていない。今後本人、家族から聞き出して、関係継続の支援をしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良しあしを考慮したテーブルの着席位置やソファの着席位置など環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も電話相談等に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む暮らしぶりには出来るだけ沿うよう努めている。	殆どの利用者は、自分で希望や、意向を表現できるので、意向に添えるよう努めている。意思表示の困難な利用者には、模索しながら、態度や表情から把握し、希望に添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居に際して、出来る限り居宅訪問を行い、家具の配置等に配慮し以前の環境に近い環境整備に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアに際し、担当制を実施し、各個人の状態把握を細やかに行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの密な情報報告や、ご本人ご家族様のご希望に沿うケアプラン作成を心がけている。モニタリング・ユニット会議等で全スタッフ参加のケアプラン作成を心掛けている。	症状に変化があればすぐに介護計画を見直している。管理者、計画作成担当者、担当職員、で話し合い、医師の意見も入れて、現状に即した計画を作成、本人、家族の了解を得て実施する。変化がない場合、6か月で見直しを予定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々記録は日勤帯、夜勤帯を色分け別記し、きめ細かい内容記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症ケアは個人差が大きいことを勘案し画一的でないケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に豊富に存在する公園を散歩に活用し季節感を味わって頂けるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣病院に月2回訪問診療を依頼し、行っている。必要に応じて、訪問歯科診療をおこなっている。	利用者は事業所協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、毎週内科、歯科の往診を受けている。他科の受診は家族と相談の上事業所でも対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し、介護スタッフの意見聴衆、指示などを浸透しやすい環境作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院退院時の文章による情報提供への協力を努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の要綱に基づき、ご入居時より看取りが可能な施設である旨を説明し、必要に際しては主治医からの説明を実施して頂いている。	入居時に「看取り介護の要綱」を示し、希望により、看取り介護も行う旨説明する。重度化したと医師が判断した時、改めて説明し、同意の確認を行う。職員体制はメンタルケアも含めて今後の課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット・事故報告書の報告及び記録の提出の徹底を図っている。また日頃から報告連絡相談体制を一貫し急変時の迅速対応を心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ、利用者、家族、自治会、地域住人参加のもと消防訓練を半年毎に行う予定である。	開所以来すでに消防署立ち合いで、消火訓練を行った。今後近隣の応援も含めて、組織的な災害対策を検討する。備蓄品についても再検討中である。	避難訓練は年2回以上実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用家族への言葉かけについては、スタッフ間で注意しあう環境作りに努めている。	管理者やフロアリーダーの指導で言葉かけや接遇態度は、人格を尊重し、狎れすぎないように注意している。個人情報書類は鍵付きのロッカーで適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩等の外出に際しては服装の相談に応じたり、女性は化粧、男性は髭剃りを援助し、定期的に理美容を受けて頂くなど、その人らしい身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に楽しく参加して頂き、個人の力量に応じて個人の力量に応じてテーブルを拭いたり、食器の配膳を行って頂く。	食事は業者納入のものを、温め、盛り付けて提供される。利用者の誕生日や、節句には、特別メニューで利用者を楽しませている。嚥下障害予防に食前口腔体操をし、静かに食事をしている。職員は別に食事をしている。	職員の一人でも、検食を兼ねて一緒に食事を摂ることが望ましい。さらに、家族的で、和やかに、食事を楽しむ雰囲気作りを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人記録には摂取水分量、回数、食事量を記録し食事の好みや嗜好に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを各個人の口腔状態に応じて実施している。また必要時訪問歯科診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間と日中のオムツやパッド、リハビリパンツの使い分けを実施、トイレ介助を優先する等、機能保持に努めている。	一人一人の排泄リズムを把握し日中は、おむつやリハビリパンツの使用を控え、早めにトイレに誘導し、自立排泄を支援している。自立に改善の傾向がみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に各個人の排便記録を詳細に書き込み、腹部マッサージや適正な水分量の管理等、便秘の管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴実施、入浴予定カレンダーを作り、6～10月は週3回、11月～5月は週2回入浴して頂く。シャワー浴のみの方、入浴拒否などのある方にも足浴を実施、進めている。	浴槽は3方向介助できるタイプと、別のユニットに車いすで入るミスト浴もあり、使い分けている。概ね週2～3回の入浴で、シャワー浴や足浴支援もしている。拒否する人も多いが、担当者を代えたり、別の機会にするなどし、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた室温湿度管理に注意し、ベッドの環境整備、体位変換、良肢位保持等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服薬者印を残し服薬時の対象者名と日付の音読等を実施し投薬ミスの無い様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵、塗り絵、習字、折り紙、散歩、日光浴、ラジオ体操などの個人能力、生活歴、性格に応じた対応に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を状態化している他、外出・外泊は積極的にご家族様が行えるよう環境整備に努めている。	季節の良いときには努めて散歩等の外出を支援している。途中では、近隣の人たちに挨拶を交わすように、また敷地の一角の緑地の水やりをして、外気にあたること、気分を転換するようにしている。家族との外出、外泊も積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームは生活保護者受入れ施設であり、所持金の持てない方も居り、不公平でもあり、また物取られ妄想を換気する要因の一つとしてトラブルの元となるので、基本的には所持金はお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援は行っている。ご希望により、電話の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション等で制作した手芸・工作・貼り絵で季節感を出したり、毎日の清掃管理に努めるなど環境整備に配慮している。	食堂兼リビングは広い。壁に利用者の手芸品が飾られ季節感がある。トイレ、バス、エレベーターホールなどは清潔である。	リビングで利用者同士、また、職員も一緒になって団欒を楽しむコーナーを設け、みんなが安心して、和やかに過ごせる居場所を作ることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファの配置に工夫し、着席位置を工夫するなど環境作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、親しみのある家具の持込みやテレビを置く希望に沿うレイアウトを実施している。	家具類は利用者の使い慣れた物を持ち込み、壁に自作の手芸品や家族の写真が飾られている。今後、職員と家族と本人が時間をかけて作り出す居心地の良さに期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターエントランスを施錠する、非常階段室の施錠など、安全面を最大限配慮しながら、能力に応じた自由度を確保している。		